

天埋カセテリア形 据付工事説明書

PJR012D316 ▲

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線(室内)は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線(室外)及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線図表をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、[△警告]、[△注意]に区分してありますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性の大きいものを特に[△警告]の欄にまとめて記載しています。しかし、[△注意]の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方(エアフィルターの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等)をお客様に説明してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書をお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据え付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 小部屋に据え付ける場合は、万一冷媒が漏れても限界温度を超えない対策が必要です。
限界温度を超えない対策としては、販売店と相談して据え付ける。万一、冷媒が漏れて限界温度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部材は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付けは、重量に十分耐えられる所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下等により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷媒サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気等を入れない。
空気等が混入すると冷媒サイクル内に高圧圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わりないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のもを使用する。
既存(R22)の部品を使用すると、機器の故障と同時に冷媒サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける。
冷媒配管を取り付けておらず、サービスマン開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスマン開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷媒サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 空気清浄機、加湿器、暖房用ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取り付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしないでください。また、改修はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据え付けに不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 室内機の修理・点検作業に際して「室内機電源ブレーカ」を必ず落とす。
点検・修理にあたって、室内機電源ブレーカがONのままだと、感電および室内機ファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

△注意

- アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、感電や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)・配線遮断器)を使用する。
大きな容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス(亜硫酸ガス等)、可燃性ガス(シンナー、ガソリン等)の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付けは、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。
室内機は水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保管物の品質低下等の原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据え付け、使用しない。
ワイヤレス機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところにリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所での据え付けは避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れのある所
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
・塩素系ガス、塩素系ガス、酸・アルカリ等、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所(調理場、機械工場等)　・車両・船舶等移動するものへの設置
・高周波を発生する機械を使用する所　・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・海浜地区等塩分が多い所　・積雪の多い所
・煙突の煙がかかるところ　・標高1000m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内機から露が滴下し損傷が生じる恐れがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながる恐れがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時に発生するスパッタがユニットにあたると、ドレンパン等に傷を付与し、水漏れの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため状態を定期的に確認し、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合は、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は硫酸系ガス等、有害ガスの発生する排水溝には直接入れない。
室内に有害ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時排水が確実に排出されていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全断熱施工を行うと配管表面が露れて、錆や霉を生じ、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の運搬は充分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど指定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。
- フィルターをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上お待ちください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源スイッチによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

○本機はダクト機です。直吹きでは使用しないでください。

お知らせ

本機と別売パネル(サイレントパネル又はキャンパスパネル)との組合せにより、4タイプの据付が可能です。

適用機種	店舗P・VXPシリーズ	40～56形	63～80形	112～160形
サイレントパネル	店舗VPシリーズ	—	50～63形	71, 80形
ビル空調	ビル空調シリーズ	22～56形	71, 90形	112, 140形
サイレントパネル	フラット	R-PNS-27WB	R-PNS-37WB	R-PNS-47WB
キャンパスパネル	天井材被り	R-PNBS-27WB	R-PNBS-37WB	R-PNBS-47WB
	フラット	R-PNC-27WB	R-PNC-37WB	R-PNC-47WB
	天井材被り	R-PNBC-27WB	R-PNBC-37WB	R-PNBC-47WB

①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小部品
 - 付属品

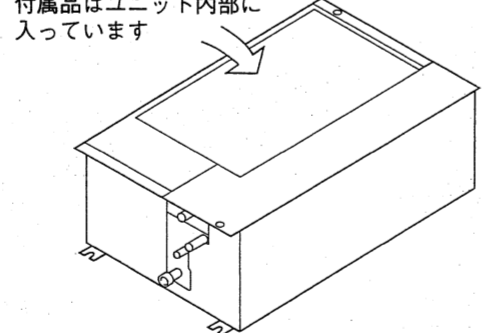
付属品

①ドレン配管用

品名	数量	用途
パイプカバー	2個	ドレンソケット用
ドレンホース	1個	
ホースクリップ	1個	ドレンホース用

付属品収納場所(梱包時)

付属品はユニット内部に入っています



②フレアナット部断熱用

品名	数量	用途
パイプカバー	1個	ガス側用
パイプカバー	1個	液側用
バンド	4個	液側用

②室内ユニットの据付場所の選定

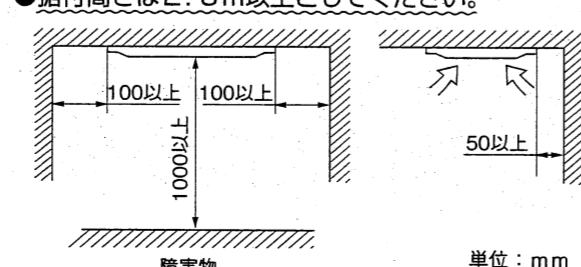
①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- ・冷風または温風が十分に吹きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にも入りやすいため、サーキュレータの併設をご指図ください。
 - ・据付・サービスマン時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
- 本ユニットは、JIS露点条件にて試験を行い、不具合のないことを確認してありますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転中に水漏れや落下の恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
- ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じる可能性があります。)
 - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。(ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。)
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③天井裏高さが下記の高さを有する所。

店舗P・VXPシリーズ	40～80形	112～160形
店舗VPシリーズ	50～63形	71, 80形
ビル空調シリーズ	22～90形	112・140形
ビル空調シリーズ	ビル空調シリーズ	ビル空調シリーズ
サイレントパネルとの組合せ	365mm	416mm
キャンパスパネルとの組合せ	459mm	510mm

室内ユニット据付スペース

●据付高さは、2.5m以上とってください。

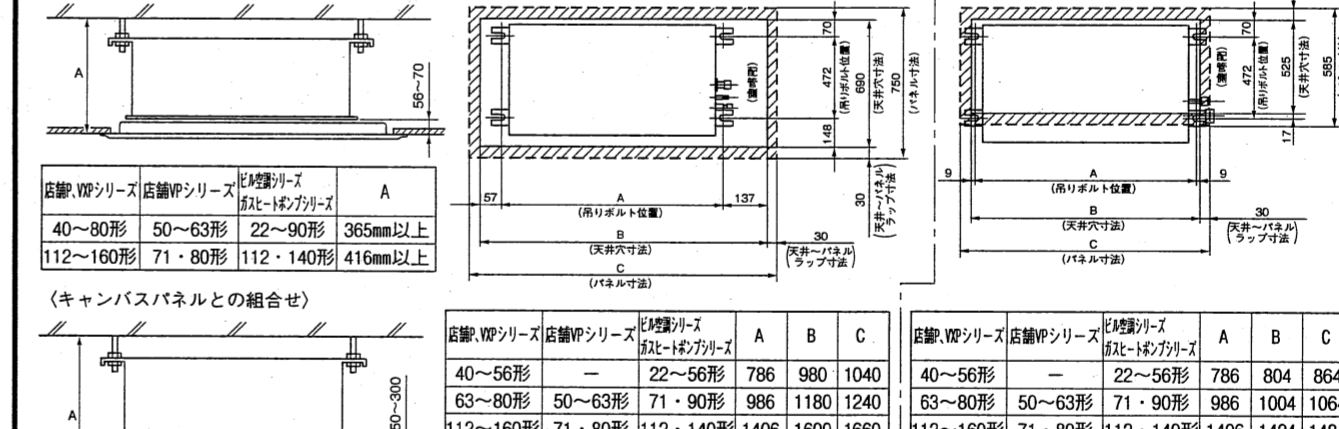


③据付け前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)が500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・パナ座金(M10)を4組現地で手配してください。

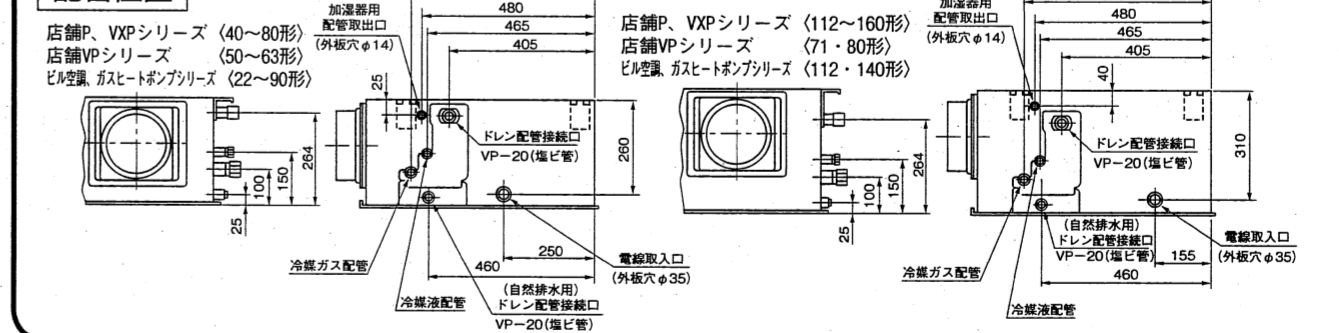
吊り込みのバターの選定

据付場所の状態によりバターの選定を決定してください。



店舗P・VXPシリーズ(112～160形)		店舗VPシリーズ(71・80形)		ビル空調シリーズ(22～90形)		キャンパスパネルとの組合せ							
吊りボルト長さ	吊りボルト径	吊りボルト長さ	吊りボルト径	吊りボルト長さ	吊りボルト径	吊りボルト長さ	吊りボルト径	吊りボルト長さ	吊りボルト径	吊りボルト長さ	吊りボルト径	吊りボルト長さ	吊りボルト径
40～80形	50～63形	22～90	71・90形	71・90形	112・140形	40～56形	50～63形	71・80形	112・140形	1406	1424	1484	1484
112～160形	71・80形	112・140形	1406	1600	1660	112～160形	71・80形	112・140形	1406	1424	1484	1484	1484

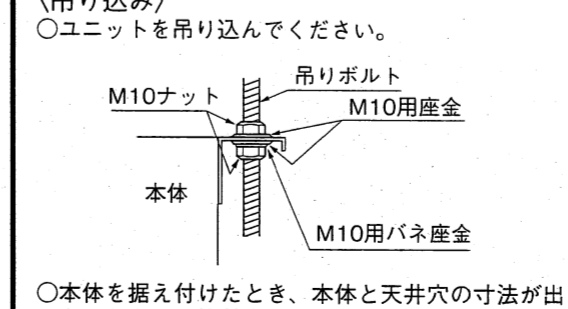
配管位置



④室内ユニットの据付け

据付

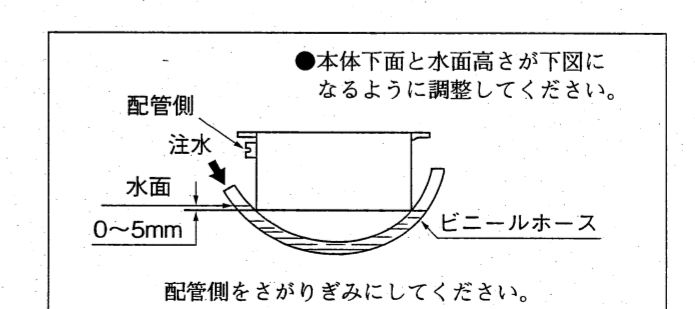
○ユニットを吊り込んでください。



○本体を据え付けたとき、本体と天井の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

水平度の調整

○水平度を調整する際は、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



○水平度がでない場合、フロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

⑤ダクト工事

●露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクト使用を推奨いたします。(別売品 1m、2m、4mがあります。)

●天井貼付前にダクト工事を実施してください。

②専用吹出口
●専用吹出口は、室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。
●ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。
●専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
●ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。

③給・排気ダクトの接続

●新鮮空気取入
●後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
●同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)
●排気 (必ず給気を使用してください。)

●側面排気口を使用してください。

●ダクト接続
●別売品の給排気用ダクトフランジ (φ125丸形ダクト接続用) を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください (バンド締め)。
●ダクトは結露防止のため、保温してください。

●4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用蓋板を別売品として用意しています。中央いずれかを塞いでください。
(注: 2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。)

●各スポット間のダクト長さの差は、2対1以内としてください。
●ダクトは、最長長さとなるよう施工してください。

●曲りは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)

●本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。

店舗 P・VXP シリーズ	40~56	63~80	112~160
店舗 VP シリーズ	50~63	71~80	
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22	28~56	71~90
スポット数	1	2	3又は4又は3

⑥冷媒配管

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
●冷媒 R22 で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点に注意してください。
●フレアナットは製品に付属されているもの (JIS 第2種) に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
●凍肉配管の使用は避けてください。
●冷媒配管は、リン酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。
●また管の内外面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。
●冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
●R410A 以外の冷媒は使用しないでください。
●R410A 以外 (R22 等) の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。
●据付けに使用する配管は室内に保管し、両端とも口付けする直前までシールしてください。
●冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具は R410A 専用ツールを使用してください。

●冷媒配管は、上図のように直線部を 250mm 以上とってください。(冷媒ポンプのサービスに必要です。)

パイプ径	総力 N・m
φ6.35	14~18
φ9.52	34~42
φ12.7	49~61
φ15.88	68~82
φ19.05	100~120

●作業手順
1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出ていますが、異常ではありません。)

●フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)

2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
●配管の曲げはできるだけ大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。
●また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。
●フレア接続は、以下のように行ってください。
●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回して3~4回回転し込み、2丁スパナで右側の締め付けを始めてください。

3. 室内機のフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
●配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●冷媒は室外ユニットに充填されています。
4. 室内および接続配管の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

⑦ドレン配管

●ドレン配管時の注意事項

●ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
●不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管は、硫黄系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
●排水後、ドレンが排水されていることを確認し、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部を確認してください。
●ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
●試験時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●作業手順 (ツイン機、トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。)

●付属のドレンホースと VP-20 用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微小なずれを吸収するためのものです。故意に曲げて使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。

●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般用 VP-20 を使用してください。
●付属のドレンホース (軟質塩ビ端) をユニットのドレンソケットの故障部まで装着し、付属のクランプで確実に締めてください。

●ドレンホース (硬質塩ビ端) に VP-20 用継手 (現地手配) を接着・接続し、この継手に VP-20 (現地手配) を接着・接続してください。
●ドレン配管は下り勾配 (1/50~1/100) とし、途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
●ドレン配管を接続する場合はユニット側の配管に力がかからないように注意し、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。
●ユニットから出るドレン配管を下がり勾配としないでください。エアが溜りユニット停止時の音の発生原因となります。
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約 100mm 下に集合配管するようにしてください。また集合管は VP-30 以上を使用してください。
●結露が発生し、水漏れをおこす可能性があります。下記2ヶ所は確実に断熱してください。

●排水テスト
●ドレン配管工事の完了後、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の場合は天井にも必ず実施してください。
●新築の場合は天井を張る前に実施してください。

1. 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約 1000cc ほどの水注入してください。注水ホースを 20mm~30mm 位差し込んで注水してください。(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)

2. ドレン排水している排水口部で確認してください。
●ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3. 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。

●下部ドレン配管工事要領 (配管接続)
ドレン配管に下り勾配 (1/50~1/100) が可能な場合、下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。

⑧電気配線取出し位置および電気配線接続

●電気配線取出し位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」 「内線規程」 及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●電源線と通信線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋 (ねじ2本) を取外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子部に確実に接続してください。コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。

●ドレンポンプ運転方法
●電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン (ワイヤード) 操作により可能です。
●電気配線工事が完了していない場合
室内機基板の SW7-1 を ON にし、かつ、基板上的コネクタ CnB を抜いた後、電源 ON (端子台①、②へ AC 200V) すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
排水確認後は、必ず SW7-1 を元の状態 (OFF) に戻し、かつ、基板上的コネクタ CnB を差し込んでください。

⑨パネルの取付

●パネルに付属されているフィルタをユニットに取付けてください。取付け要領は右記のフィルタ取付け方法により取付けてください。

●サイレントパネルの場合

●パネル外枠を本体に取付けてください。

●パネル取付けねじ (パネル付属品) 4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
●パネル外枠を仮止めしたねじに引っ掛け、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。
(注: パネル外枠の装着には方向性があります。)

●仮止めしたねじ及び残りのねじ (2本) を締め付けてください。
●センターパネルを①項で逆すの要領で取付けてください。

⑩パネルの取付のつづき

●パネル外枠を取付けてください。
●ホルダを下図に示すように仮止めしてください。

●パネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。

●チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

●パネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。

●チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

●フィルタの取付け方法
●パネルに付属のフィルタを以下の手順でユニットに取付けてください。
●取付は平フィルタから行ってください。一番右側 (配管側) に取付けてください。
●波形フィルタを順次取付けてください。④→③→②→①
●波形フィルタについてはフィルタ枠についている突起を本体側の切欠きに合わせて取付けてください。上部は止め具で固定してください。(下図参照ください。)

●波形状フィルタ同士は隙間を小さく互いに重なり合うようになっています。取付時は連結するように取付けてください。

⑩ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	